

間ニテ落合、前ニ出シ清津川等モ一二成、飯山ヲ過テ越後魚沼郡ニ來リ、妻有ノ郷ノ内ヲ流レ川口ノ驛ニテ大野川ト合シテ大水ト成、妻有ノ郷山屋村ノ邊ヨリ山奥途程八里ノ間ノ川中ニ、二十七瀧有リ、中ニモノタキト云ヘルハ難處ナリ、依之信州へ舟ノ通ジナシ、近曾打ツハキ度々洪水シテ飛泉々々ノ高キ巖ハ欠落テ平ラカニ、深キ淵ハ埋レテ淺瀬ト成リ、ソタキノ外ハ扁舟筏ノ類ハ通路モスルコトニヤ、大野川ヲ舟ニテ下ル間ニ所々ニ難事トスル場多シ、中ニモ此川口ノ川合ヲ第一トス、風有時、洪水ノ折節必ズ乘ベカラズ、身ヲ慎ム人乗マジキ事也、川合ノ神社、此岸ニ鎮座サテ右左ノ川々次第ニ落合流入テ、魚沼、古志、三島、蒲原四郡ノ中ヲ過ギ、新潟ノ湊ニ到リ、凡水面一里餘、運送自由ノ専一ノ河也。

〔萬葉集十四東歌〕信濃奈流知具麻能河泊能左射禮思母伎彌之布美氏婆多麻等比呂波牟○中略

右四首、信濃國歌、

〔東遊記後編〕新潟

越後國新潟は、信濃川。其外の川々落合て海に入る所なり、海口近くの一ニ里の所は、川幅廣き事一里二里ばかり、渺々として湖のごとく入り海のごとし、岸より岸まで水甚深く、淺瀬といふものなし、千石二千石の大船といへども、いづくまでも自由に出入りす、誠に川湊にては日本第一ともいふべし、川幅の廣きも天下無雙ともいふべし、此河を信濃川といふは、此川の水上は信州犀川筑摩川にて、其國善光寺の邊にても、既に東海道天龍川程の大河なり、それより新潟までは五六十里をへて、其間大小の川々流れ入るゆゑ、かくばかりの大河となる、されど越後は地勢平坦なるゆゑ、流れ甚穩にして、淀河などよりも静なり、總じて越後路石無く、皆ニコ土ゆゑに、川の兩岸も柔にて、崩入り次第なり、されども水勢ゆるきゆゑに、大に崩る事もなし、其水は常に黃色に濁れり、余は三條と云所より新潟迄十里の所を、此信濃川の堤通り來りしゆゑ、此川の體委敷